

履修における注意事項（平成24年度以降入学者昼間コース）

履修上の重要な注意点は学生便覧に掲載されています。また、各年度に開講する授業の詳しい内容はシラバスに掲載されています。原則として入学年次の学生便覧に記載されている規則が卒業まで適用されますので、入学時に配付された学生便覧やその他の資料を卒業まで大切に保管しておいてください。また、学生便覧の記載事項に変更が生じた場合は、学務係前ならびにNU-Web掲示板を通して通知しますので、毎日確認してください。

- ★ 「履修登録」は指定された期限までに、Nu-Webによって必ず行ってください。その際、画面上で登録内容に間違いがないか必ず確認してください。履修登録が正しく行われていなければ、授業や試験を受けても原則として単位は認定されません。
- ★ 履修する授業科目、履修コース並びにゼミ（専門ゼミ・卒研ゼミ）の選択は、自分の学習上の関心に従って行いましょう。「先輩がいる、勧められた」あるいは「友人が選択する」などの安易な理由で選択すると、学習意欲がわかずに登校しなくなってしまうことがあります。
- ★ 科目名に（A）、（B）の表示がある場合は、登録できるクラスが決まっており、卒業するまで固定されますので注意してください。
 - （A）学生番号の下3桁が180番未満の昼間コース学生
 - （B）学生番号の下3桁が180番以上の昼間コース学生、夜間主コース学生、編入学生
- ★ すべての授業科目が毎年開講されるわけではなく、隔年（1年おき）開講科目、数年に一度開講される科目があります。たとえば隔年開講科目の単位を修得できなければ、同一科目を履修するには1年間待たなければなりません。
- ★ 履修登録を行い、実際には履修せず後でその科目を放棄すると、2年次のコース所属決定や授業料免除者選考の際に用いられる成績順位（評点）が下がります。授業には必ず出席し、しっかりと講義ノートを作成し、また予習・復習を十分に行うよう努力することが大切です。
- ★ 教員に質問したい場合などは、授業時間中や授業終了直後、あるいはシラバスに記載されたオフィスアワーを利用するか、各教員がシラバス等に指定する方法によって直接連絡をとってください。
- ★ 成績は、年2回、前期・後期の成績開示日以降にNU-Webで直接確認してください。（学生便覧「考査及び成績について」のページを参照してください。）なお、前期、後期の成績確定後に、学生の保証人に成績通知を行います。また、単位修得状況が不振な学生に対しては前期・後期のはじめに履修指導を行い、これに参加しない学生は保証人に通知します。
- ★ 大学から学生に対する通知・連絡などは学務係前およびNU-Web上の掲示板を通じて行われます。通学時に必ず1日1度は掲示板を確認するよう心掛けてください。また、経済学部ホームページ（在学生の皆様へ）にも基本的な情報を掲載していますので、有効に利用してください。（<http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/>）

卒業延期（留年）を防ぐために

よくある留年パターン

パターン1: 授業に出席しない、単位を修得できない。 → 1年次のうちに登校しなくなる。

教養教育では、学部の違いを超えて、これから専攻する分野の学問体系における位置を正確に理解するとともに、幅広くかつ深い教養を身につけます。また1年次から開始される教養教育の学部モジュール科目および専門教育の学部基礎科目は、2年次後期以降に履修するより専門的な科目の基礎をなす科目であり、高校までの学習と大学での学習の橋渡しをします。継続的に出席しなければ講義についていくことはできません。

また、過度の、とくに深夜の時間帯のアルバイトを行うと、履修上困難をきたすことがあるので極力避けてください。

パターン2: 希望のコースに入ることができない。 → 2年次後半から登校しなくなる。

履修コースの配属は、1年次の成績を基準に本人の希望により決まります。成績次第では希望するコースに入ることができず、学習意欲をなくしてしまいがちです。

パターン3: 教養教育科目の最低修得単位を修得できない。 → 3年次以降登校しなくなる。

片淵キャンパスと文教キャンパスの往復には時間がかかるため、3年次以降の専門教育と教養教育の同時並行履修はきわめて困難です。

パターン4: 希望するゼミに入ることができない。 → 3年次以降登校しなくなる。

自分の希望するゼミ（専門ゼミ・卒研ゼミ）に所属できない場合、学習意欲が低下するとともに卒業論文を書くことも困難になってしまいます。

パターン5: 演習履修要件を満たせない。 → 1年間以上の卒業延期（留年）が確定する。

2年次終わりまでに演習（ゼミ）履修要件を満たすことができず専門ゼミを履修できないと、4年間での卒業はできないことになります。

パターン6: 考査（試験やレポート）での不正行為

試験やレポートでの不正行為は、当該学期の授業科目の単位が与えられないほか、訓告、停学、退学等の処分が行われることがあります。

昼間コースの履修体系および注意事項

平成24年度以降昼間コース入学者用

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業科目区分**	(教養ゼミナール、学部モジュール *1)							
教養教育科目(40単位)	月、火、水、(木or金)	月、火、水	木、金	木、金				
学部基礎科目(20単位)*2		木、金	月、火、水					
コース基礎科目(12単位)*3				月、火、水				
コース別科目(28単位)*4					月から金	月から金	月から金	月から金
演習(8単位)			基礎ゼミ(月or火)*6		専門ゼミ(月or火or木or金)		卒研ゼミ(月or火or木or金)	
自由科目(学部モジュール科目・ 専門教育科目)(18単位)*5	学部モジュール科目(教養教育科目)または専門教育科目から自由に選択して履修する授業科目							
上限単位*7								
教養教育科目 専門教育科目	46単位		48単位		40単位		40単位	
履修上の注意			コースの選択 ⇒ 1年次の成績 と希望	専門ゼミ(必修)・卒研ゼミ(必修)の履修(原則として同一の指導教員の下に履修する) 専門ゼミの履修要件 ⇒ 教養教育科目の修得単位数が28単位以上(外国語科目8単位以上を含む) ⇒ 専門教育科目の修得単位数が20単位以上 卒研ゼミの着手要件 ⇒ 卒研ゼミを履修するためには専門ゼミの単位を修得していなければならない				

** : カッコ内は最低修得単位数

*1 : 1科目2単位

*2 : 1科目4単位

*3 : 1科目2 or 4単位 なおコース基礎科目の最低修得単位数を超えて修得したコース基礎科目の単位はコース別科目の最低修得単位数に含めることができる(学部規程第10条第2項参照)。

*4 : 1科目2 or 4単位。

*5 : 1科目2・4単位

*6 : 選択科目

*7 : 詳細は経済学部規程第13条(履修科目の登録の上限)、第14条(履修科目の登録の上限の特例)及び教養教育履修規程第12条(履修科目の登録の上限)参照